

県工技センター

LED評価 3装置導入

16日 サポートセンター開設

徳島県立工業技術センター(徳島市)は、LED製品の安全・環境性能を評価する装置3台を新たに導入した。本年度、センターに設置された「LEDサポートセンター」の中核事業として、LED製品性能評価のワンストップ化を目指す機器整備の一環。



LED製品から出る電磁波の強さを測るレーザーアンテナ―徳島市の県立工業技術センター

装置は▽サージ試験システム▽高調波・フリッカ測定システム▽レーザーアンテナで、購入費は計1886万円。センターが所有するLED性能評価装置は2011年度に導入した光学性能評価装置2台と合わせて5台となった。サージ試験システム

は、LED製品が落雷や静電気による異常高電圧を受けた場合の耐久性を調べる。高調波・フリッカ測定システムは、LED製品の使用時、電源に発生する電磁波や電圧変動

を測定。レーザーアンテナでは、LED製品から空中に放出される電磁波の強さを検査する。機器利用料は1時間210～1260円。県外企業が利用する場合は2

倍の料金がかかる。ただし関西広域連合の区域内の企業については、県内企業と同料金で利用可。依頼試験も受け付ける。工業技術センターは16日午後1時半から、LED

Dサポートセンターの開設記念講演とセミナーを行い、その後、新装置の見学会を実施する。問い合わせは(電088(635)7900)。(湯浅翔子)